

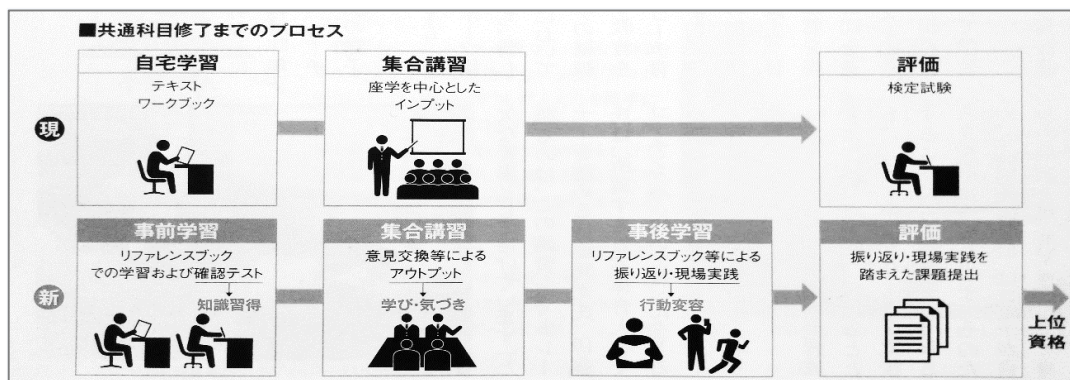


## 『視点が変わる!! プレイヤーズファーストから「プレイヤーズセンタード」に!!』

日本オリンピック委員会 医・科学強化スタッフ 花岡 美智子

日本スポーツ協会(以下 JSPO)は本年 4 月から公認スポーツ指導者制度を改定しました。その改正の中心に置かれたのが、従来までのプレイヤーズファーストから“プレイヤーズセンタード”の考え方です。この“プレイヤーズセンタード”とは、プレイヤーズファーストを前進させ「プレイヤーを導き支えるスポーツ指導者、すべての関係者の幸福を目指しつつ、プレイヤーが望むスポーツ活動を理解しながら成長を促す役割を持つ」という考えです。さらにこの制度には以下の 7 つの変更点があり、既存の知識に新たな知識を結び付ける革新的な内容になっています。

1. 共通科目学習内容(カリキュラム): 学ぶ項目名は共通、学ぶ内容の深さや量は資格別に設定
2. 学習時間数: 共通科目のレベルが上位になるにつれて時間数も漸増
3. 共通科目終了までのプロセス: 知識の習得は事前学習と確認テスト(合否)、テスト合格者のみ集合講習会参加、事後学習課題提出、終了判定 (下図参照)



4. 共通科目集合講習会実施: 科目横断的なテーマを設定しアウトプット中心の形態(アクティブラーニング方式)
5. コーチディベロッパー(CD:コーチ育成者)の養成: 講習会をより円滑に、JSPO が養成機関
6. 共通科目終了時の評価方法: 事前学習時の知識習得・確認テストの合格に加え、集合講習会参加終了、事後課題提出、一定水準を満たすことで共通科目終了
7. リファレンスブック: 学ぶ項目名は共通となるため従来の「テキスト」から参考書として一冊に変更

～2019JSPO 指導者養成講習会を終えて～

オリンピックを多数輩出している本県、改めて本県指導者の素晴らしさを念頭に置きながら、全国 10 会場で開催された JSPO 指導者養成講習会を振り返ると、参加者には日本代表コーチから協会関係者・指導者、地域・民間指導者、栄養士、AT、PT など多様、参加目的は“仕方なし、協会から、選手・自分の為”などこれも様々、しかし最終日の振り返りは“多くを学び、明日を夢見た”と。受講形態は慣れないアクティブラーニング方式、日々のパーソナルゴールを設定し、熟考・傾聴・プレゼン・振り返り・評価、組み込まれたカリキュラムの多さ、他領域との新たな視点、相互理解、CD 自らの学びの多さ深さに気づかされた充実した時間となった。選手の小さな変化に気づき・見落とさない日本のスポーツ指導者、この期待度は今後も計り知れない。

選手の皆さん!! 素晴らしい指導者はいつもあなたの側にいます!!



〈JSPO 指導者養成講習会: 東京会場ーコマ〉